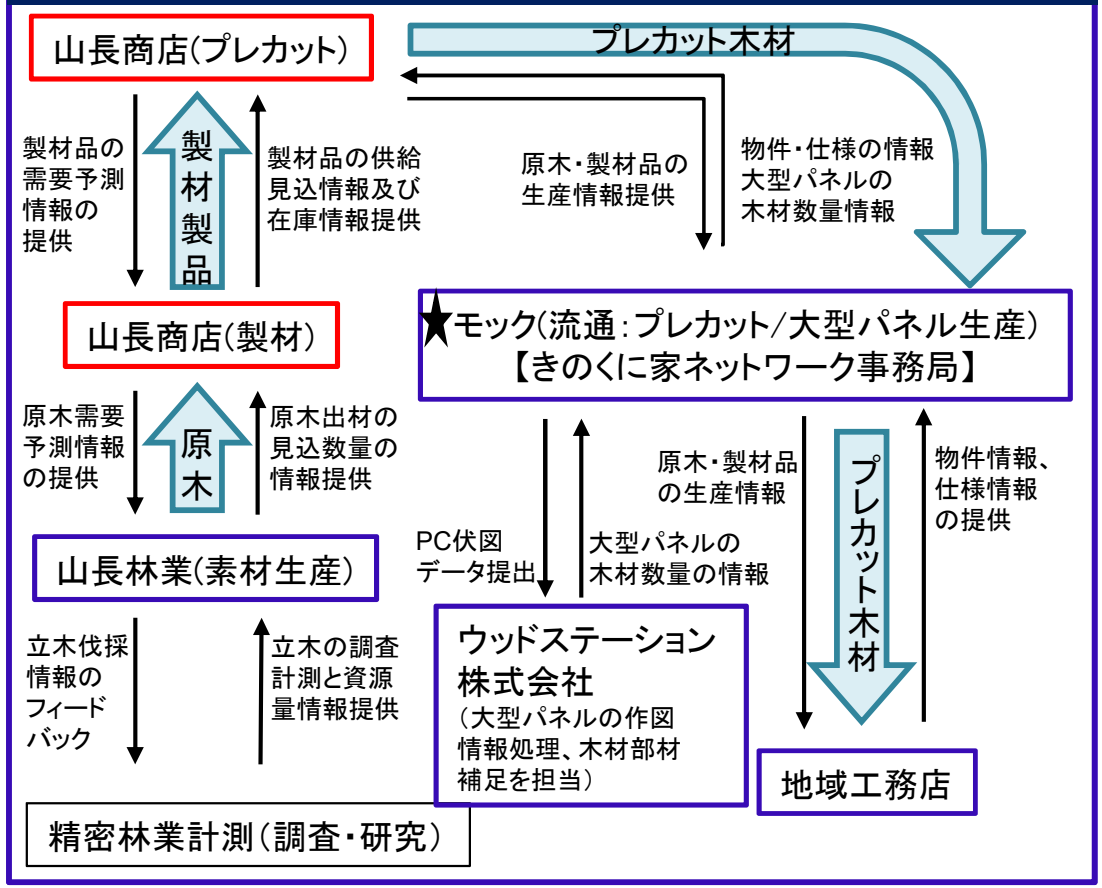
令和3年度　森林資源の利益最大化のための需給予測マッチング検証
きのくに家（や）ネットワーク・サプライチェーン検討部会

1. 全体概要



2. 取組の背景、地域の課題

○【取組の背景】産地ごとの諸条件、品質、課題は様々。経営の時間軸の捉え方で林業と市場経済では大きく違う。また、仕様品目数が膨大で、短納期の市場と木材供給側との建築情報の伝達不全、情報不足が木材の安定供給を阻害している。その情報の元となる設計図書の完成度がプレカット発注直前まで低い現実がある。

○【地域の課題】紀州の豊富な森林蓄積量は地元だけでは消費できず、遠隔地の首都圏を主な市場とする。市場のスピードに対応するためには一貫生産体制の利点と在庫を潤沢に持つだけでは、急な需要の増減に対応できない上に川上側事業者の経営を圧迫する。

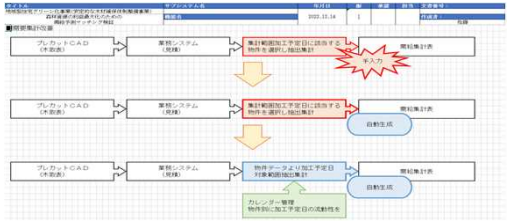
3. 取組の概要、成果

○構成員間、特に直接の需要者である工務店と、B材丸太の価格の動向がA材丸太の価格に大きく影響する現状とその仕組みについて共有し、木材調達のための「情報伝達」の重要性の相互理解を深めた。

○需給予測のための径級・等級の把握を効率的・省力的に行うため、ドローンで調査計測を行い、解析したデータとプロットしておいた伐採した材で検証を行った。

○需要起点の設計図書からの部材補足のため、パネルデータ、プレカットデータから木材情報を拾い出しリスト化の検証を行い、一定の範囲内で可能であると立証できた。

○川上側は、需要量の把握と原木の販売価格が保証されないと安定的には伐れない。川下側の設計図書からの部材情報及び価格情報の共有を進めることで川上側は前もって需要を把握でき、伐採・生産に安心して臨め、安定的な木材確保体制を創ることが可能であると確認できた。



需給集計表で管理

必要木材を一元管理

4. 今後の取組、課題

○【体制整備】
情報処理を大型パネルまで進めることで、設計図書の完成度を高めるとともに、工務店と木材供給側の双方向で部材情報・需要情報の共有を進める。

○【システム開発】
部材情報と製材の生産情報、在庫情報のタイムリーな連動を実務ベースで実行できるようシステムの精度を上げる。

○【課題】
システムで発生したバグの対応。
各事業者で事業のスピード感が異なることを考慮した運用面の擦り合わせ。
設計図書から原木供給までの各工程での数量と現物との紐づけの実効性を上げること。